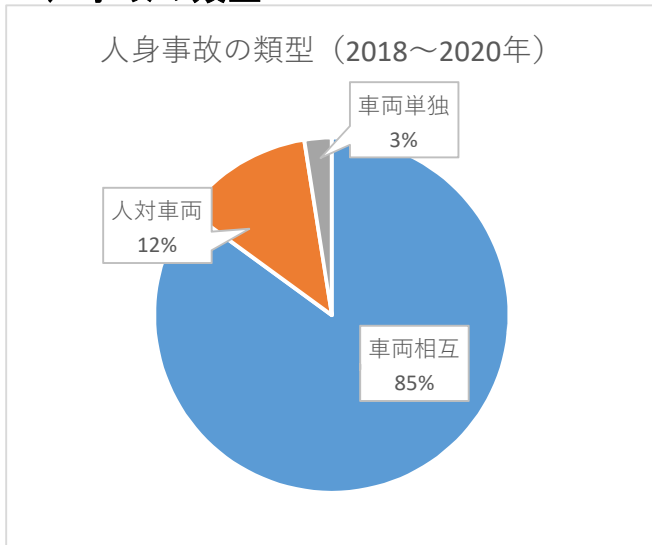


データからみる人身事故の傾向（2018～2020年）

西宮市における2018～2020年の人身事故の傾向をグラフ等で示したものです。
データ出典：兵庫県のオープンデータ【交通事故統計情報】

1) 事故の類型

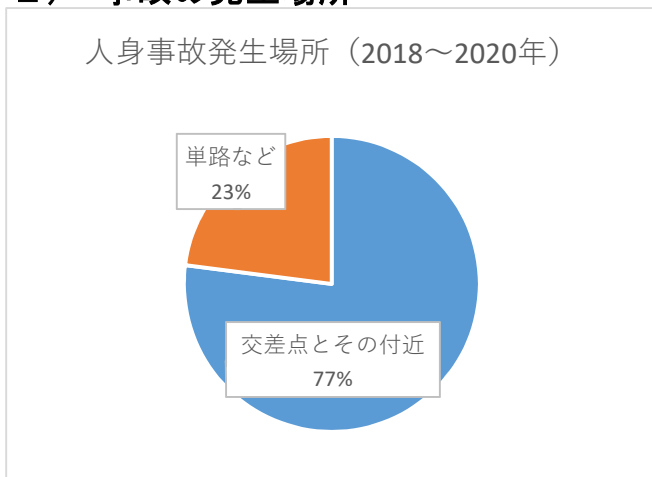


車両相互が85%で最も高い。
人対車両は**12%**である。
(車両は自転車を含む)

ポイント
車両は、お互い**速度が上がるほど**、回避行動が難しく、**大きな事故に発展、死亡事故の危険性が高まります**。

車両の運転手は、**けがや死亡につながる危険性を認識し、スピードを抑え安全運転を心がけましょう**。

2) 事故の発生場所

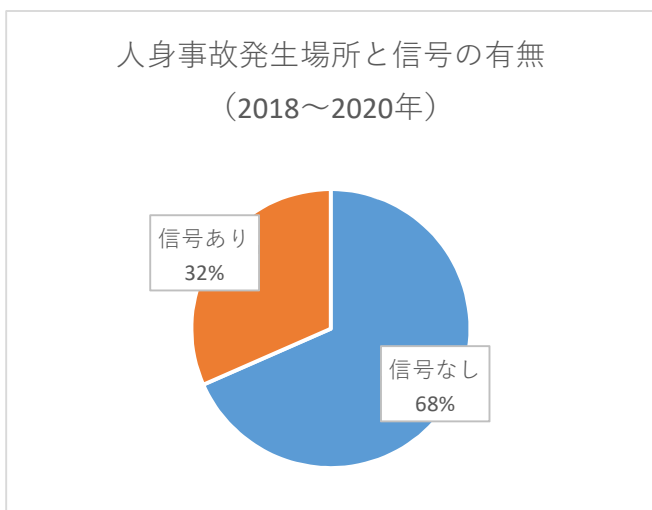


交差点とその付近が77%を占める。

ポイント
交通事故の多くは、**交差点とその付近で発生**しています。

見通しの悪い交差点は特に注意しましょう。

出合い頭事故が起こらないように自動車も自転車も歩行者も**一旦止まって、左右の安全確認**を！

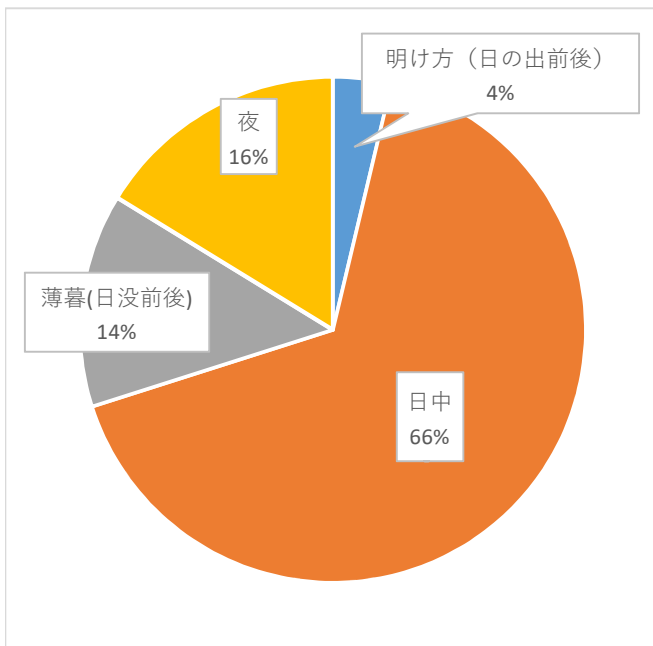
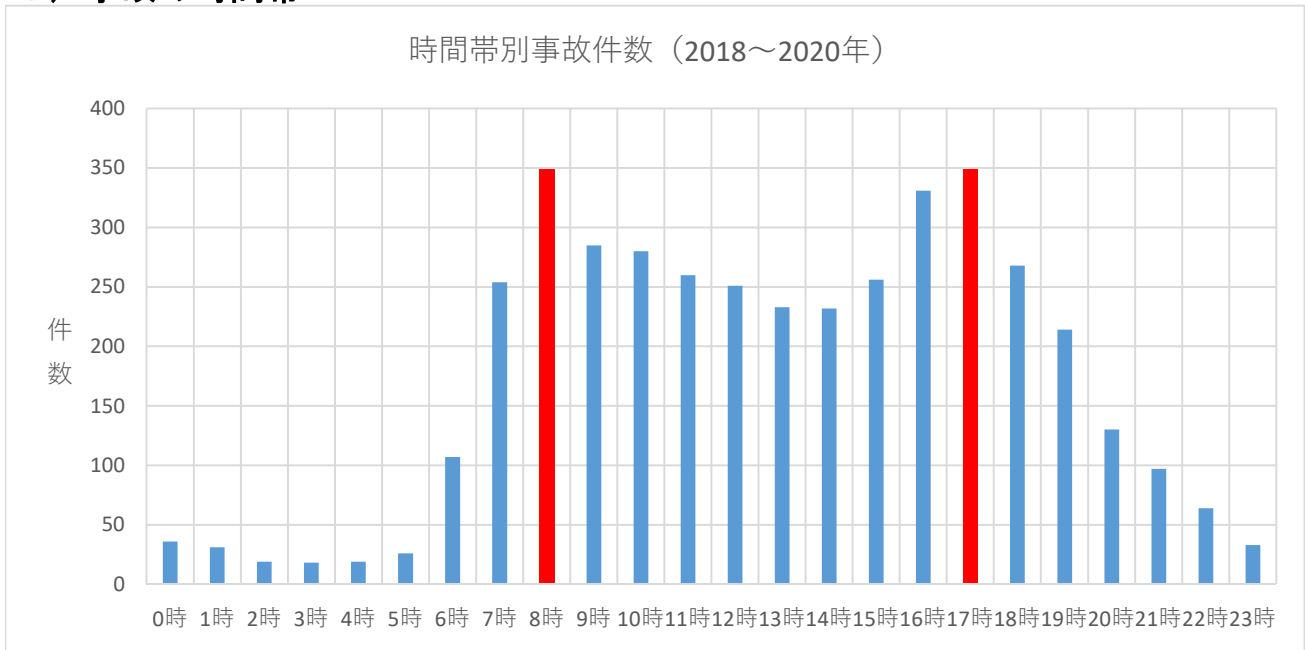


信号機のない場所が68%を占める。

ポイント
運転手は、一時停止場所や歩行者がいる**横断歩道では、必ず一旦止まり**ましょう。

信号のある交差点でも、歩行者や自転車は、青信号に従い交差点を横断しているときに、**交差点を右左折する車両と衝突する事故に注意**しましょう。

3) 事故の時間帯



通勤通学時・帰宅時の8時台と17時台が多い。

ポイント

通勤通学時は、交通量が増加するとともに、つい焦りがちとなりますので、時間に余裕をもって行動しましょう。

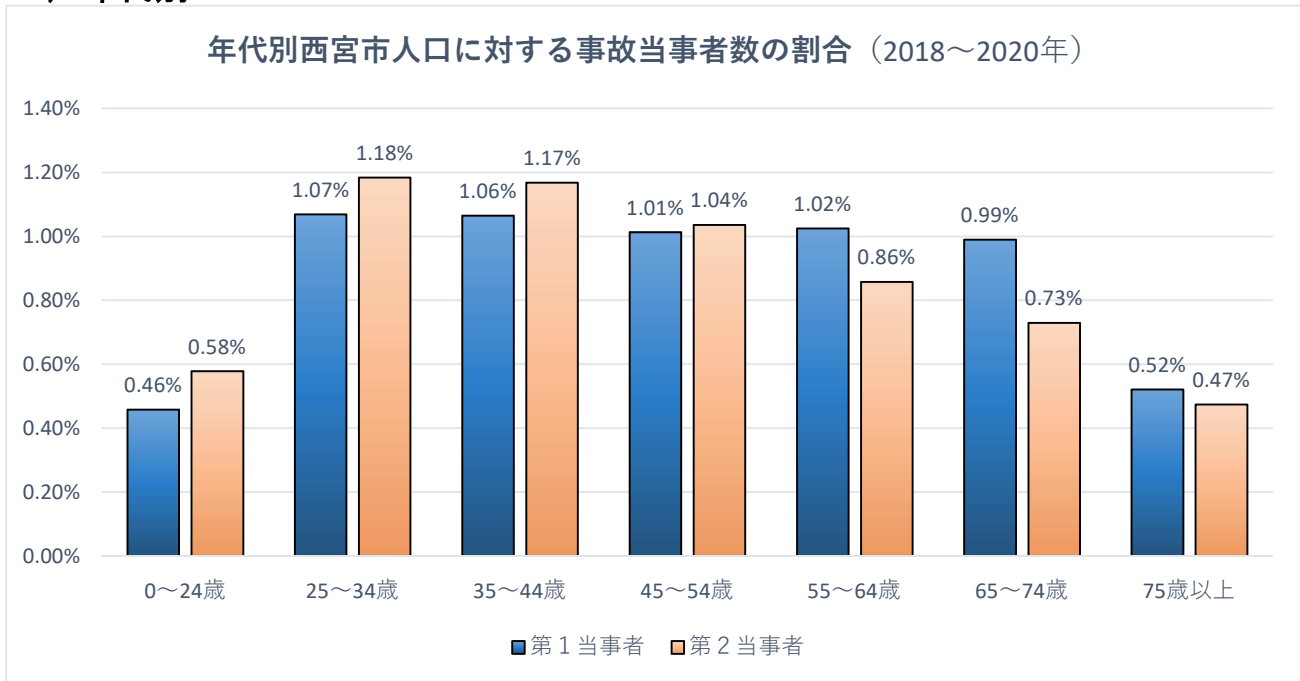
帰宅時・夕方から夜にかけては、交通量の増加とともに、体も疲労状態にあります。

また、日没前後から視認性も低下します。

車両は、存在を相手に知らせるためにも**早めのライト点灯**を！

歩行者や自転車は、**反射材**を活用して目立つ工夫をしましょう。

4) 年代別



年代別に、西宮市の人口に対する事故当事者数の割合を求めた。

$$\frac{\text{(2018～2020年のX～Y歳の西宮市内発生事故当事者数)}}{\text{(2020年12月31日現在におけるX～Y歳の西宮市人口)}}$$

25～44歳は、人口に対する事故当事者数の割合が高い。

55歳以上では、第1当事者数*が、第2当事者数を上回っている。

ポイント

自転車は第1当事者となることもあり、子供から高齢者まで、人身事故を起こす可能性は誰にでもあります。自転車は、原付やバイクと同じ車の仲間です。自転車安全利用五則を守りましょう。

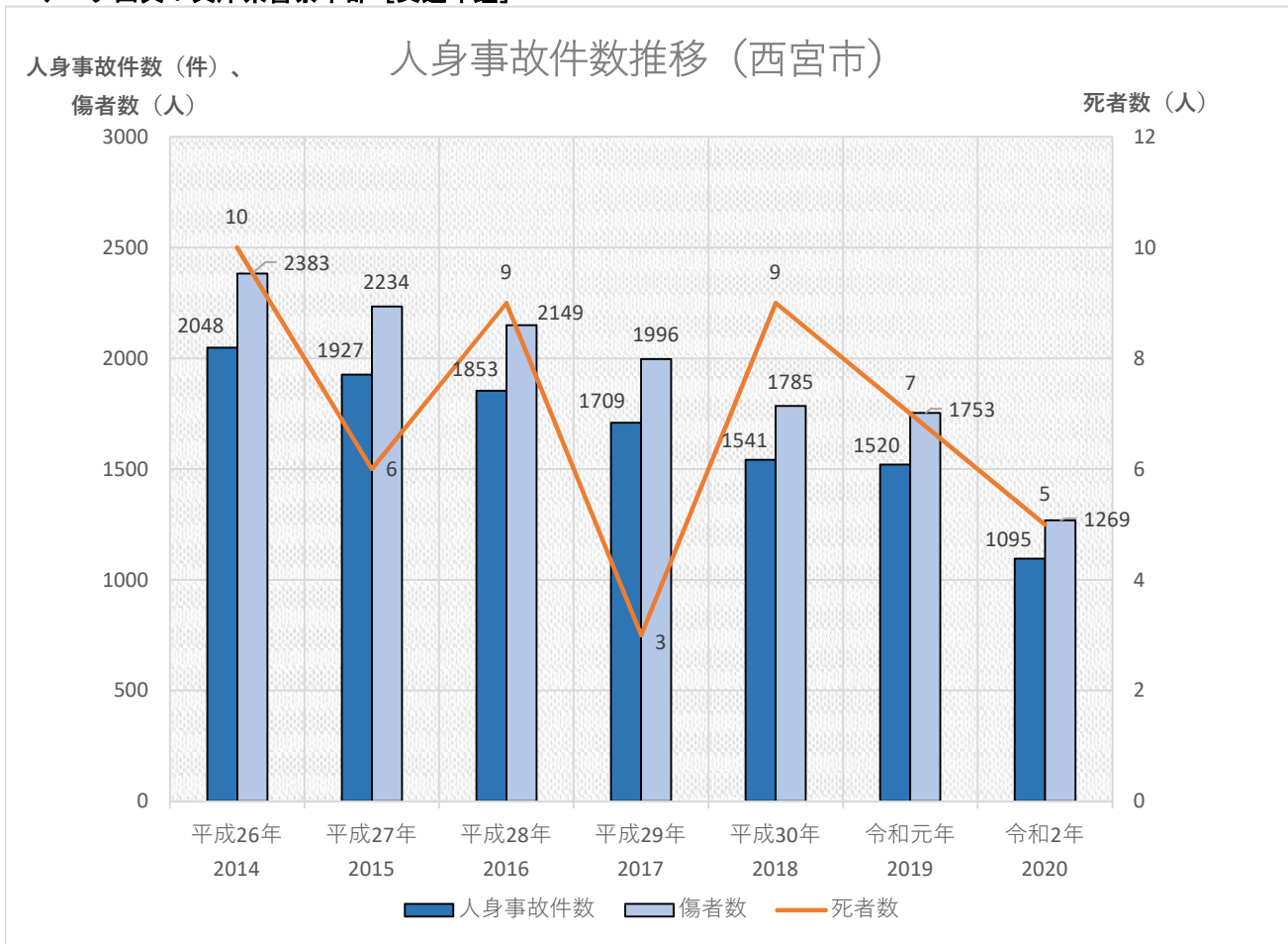
※「第1当事者」とは、交通事故に関係した者のうち、過失（違反）が最も重い者をいい、過失（違反）が同程度の場合は被害の軽いものをいう。

自転車安全利用五則

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
 - ・ 飲酒運転、二人乗り、並進の禁止
 - ・ 夜間はライトを点灯
 - ・ 交差点での信号遵守と一時停止、安全確認
 - ・ ながら運転（携帯電話・イヤホン・傘差し等）は禁止
- 5 子どもはヘルメットを着用

5) 事故件数の推移

データ出典：兵庫県警察本部 [交通年鑑]



人身事故件数と事故による傷者数は、平成26年以降減少傾向にある。

ポイント

近年、交通事故発生件数は全国的にも減少傾向にあります。しかし、今後とも高齢化が進展することを踏まえ、事故当事者の高齢化が進み、死亡事故のリスクが高まることが懸念されます。

交通ルールやマナーを遵守し、日頃から思いやりのある行動を心掛けましょう！